

011603水道業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2021	8	20 ～ 22	下水処理施設において、被災者1名にて、大雨の影響で水量が増えた汚水槽等からの排水作業を行っていたところ、汚水槽内に転落し、溺水により死亡した。被災者は、死亡推定時刻から約7時間後に汚水槽内で発見されたが、発見時に汚水槽のマンホールの蓋が開いていた。	391	10	1～ 9
2020	1	8 ～ 10	ビル屋上に設置された貯水槽点検のため、当該貯水槽に設置されたはしごを上がっていたところ、当該はしごが外れ、高さ3メートル70センチの高さから墜落した。	413	1	300 ～
2020	10	14 ～ 16	敷地内の碎石置場に設けられた擁壁の上に砂利が堆積していたことから被災者が移動はしごの最上段から砂利を除去し、降りようとしたところ、上部から2段目の踏み面を踏み外し、約1.5メートルの高さから地上へ墜落し、左腸骨翼を骨折し入院した。後日容態が急変し、上記骨折に起因する肺血栓塞栓症により死亡した。	371	1	100 ～ 299
2017	2	12 ～ 13	下水処理ポンプ場において、被災者がグレーチング張りの床面の上からホースで散水し、雨水自動除塵機の洗浄を行っていたところ、何らかの理由でグレーチング1枚（約30キログラム）が外れ、そのために生じた開口部から約6メートル下の雨水沈砂池に墜落し死亡した。	414	1	10 ～ 29
2017	12	12 ～ 13	浄水場内の施設点検のため、敷地内を1人でパトロール中に、沈殿池（深さ約3m）の中の通路を東側から西側に向かって歩行中に足を踏み外し沈殿池に落下、溺死した。	418	10	10 ～ 29

2016	9	6 ～ 7	浄化センターの下水処理用の合流No. 1曝気槽において、紐付きのバケツで採水を行う際に、何らかの原因で曝気槽内に転落し、溺れた。	418	10	30 ～ 49
2016	11	5 ～ 6	被災者は、施設の監視委託業務中において、施設内の屋外駐車場で転倒し、後頭部を凍結路面に打ちつけ脳挫傷により死亡した。	719	2	1～ 9
2015	4	9 ～ 10	7枚で構成する反応槽の蓋が2枚外れたため、被災者を含む5名で蓋の復旧作業を行っていたところ、被災者が乗っていた蓋が脱落し、反応槽に墜落した。反応槽は深さ12mで、約11m汚水が滞留している状況であったが、槽の内部が酸欠環境であったこと等から、速やかに救出ができず、死亡に至った。（発生から4時間後に救急隊員により発見された）	414	1	50 ～ 99
2015	3	16 ～ 17	市企業局管理の温泉供給設備において、市職員2人が造成塔で湯温等調整作業したが、温泉を送る引湯管の流れが悪く市職員から被災者へ架電し引湯管の空気抜き作業を依頼。被災者は14時頃作業員1人と造成塔から200m引湯管を下った雪に埋まった空気抜き設置箇所と思われる場所で作業開始。2人は雪を掘り（雪穴：縦1×横1.8×深2（m））雪穴で作業中被災。その後市職員が造成塔から下りて2人を発見し救助中1人が被災。	514	12	10 ～ 29
2014	4	9 ～ 10	浄水場回りの藪の中に入り、落ち葉を熊手でかき集める作業を行っていたところ、ハブに手甲部分を咬まれ、病院に搬送されたが、心肺停止により死亡した。	719	90	1～ 9
2014	8	10 ～ 11	汚水管ポンプから送り出した汚水の管の詰まりを除くため、下流側のマンホール内に入り、タラップに足をかけ、管ツールを管に通していたところ、マンホール底へ落下した。	418	1	30 ～ 49
2011	9	23 ～ 0	台風15号の大雨に伴う市民からの水路が溢水しているとの通報を受け、現地調査に向かったまま行方不明になり、水路下流で心肺停止状態で発見された。	713	10	30 ～ 49
		23	台風15号の大雨に伴う市民からの水路が溢水しているとの通報を受け、			30

2011	9	0	～ 現地調査に向かったまま行方不明になり、水路下流で心肺停止状態で発見された。	713	10	～ 49
2009	1	15	～ 水道原水であるため池の水質確認のため現地見回りを昼過ぎから一人で 16 行っていたが、帰庁予定時刻を過ぎても戻ってこないため、他の職員が確認に行ったところ、池に沈んでいる被災者を発見した。	713	10	～ 29
2008	6	10	～ センター内機械棟において、設備盤内にある蓄電器設備の遮断機 11 (VCB、90×80×75cm) の保守点検を行うため、遮断機を盤から取り出し 11 て盤内を点検及び清掃中に、3キロボルトの高圧電線に感電して死亡した。	352	13	～ 299
2007	9	15	～ ダムから浄水場に繋がる送水用の塩化ビニル製のパイプが外れて漏水して 16 いたことから、これを修復するために、止水栓を閉じて水流を止めようと 16 試みたが、止水栓は土砂に埋没していたために、被災者が素潜りにより、 16 ダム内の堤から約10m、水深1m付近にある送水パイプに繋がるホース 16 の取水口を塞ごうとしたところ、被災者が取水口に吸いこまれた。	713	10	～ 29
2007	2	11	～ 被災者は、浄水場に送水するための取水口の引入口付近で、点検維持管理 12 業務を行っていたところ、水面からの高さ約1.7mのところから水面へ 12 墜落した。	418	1	～ 99
2007	12	16	～ 浄水場の運転管理業務の一環で、ベルトコンベヤーのドラムを運転させな 17 がらホースによる洗浄作業を行っていた。被災者がホースを持った手をド 17 ラムに近づけすぎたため、ドラムに巻き込まれた。	224	7	～ 99
2006	3	15	～ 被災者は、浄水場において、一人でろ過池の清掃作業を開始した。清掃業 16 務の管理者が、夕方に上記浄水場に迎えに行ったところ、ろ過池に被災者 16 がうつ伏せで浮いているのを発見した。	713	10	～ 29
2005	4	8	～ センター内の設備の点検整備をしていたところ、分水枳内に転落した。 9	414	1	～ 29
2005	10	15	～ 建物の設備に関する事前調査中に設けられた開口部から5.7m墜落した。	414	1	～

		16							29
2004	8	10 ～ 11	下水管の洗浄作業後の点検作業のために人孔に入り倒れた。	514	12	～			50 99
2004	8	10 ～ 11	下水管の洗浄作業後の点検作業のために人孔に入り倒れた。	514	12	～			50 99
2004	2	8 ～ 9	河川の流雪溝の取水口付近で氷雪を捨てる作業中に川に流された。	713	10	～			10 29
2003	5	13 ～ 14	午後から来る来訪者の視察案内下見のため、浄水処理棟の屋上を歩いていて転落した。	418	1	～			50 99
2001	11	7 ～ 8	汚泥浄化棟内(2階建)の1階階段下付近において、汚泥状態の目視点検作業に行った者が嘔吐して後頭部から血が出ている状況で、意識についてもはっきりしない状態で倒れているのを、同棟に近接する箇所で建築工事を行っていた建設現場所長が発見した。	999	99	～			10 29
2001	11	14 ～ 15	緩速ろ過方式の調整池内において、整流板の向こう側にある幅10cm程度のタイル上で整流板につかまりながら約90cm先の壁面をデッキブラシで清掃していたときに、あやまって2.7m下の調整池底部に墜落した。	418	1	～			30 49
2000	11	10 ～ 11	特高受電設備(77000V)において、受電幹線を2号線から1号線受電に切替えるため、空気遮断器で切替作業を行ったが、しばらくして空気遮断器作動用空気源設備の圧力低下警報が鳴ったため、空気漏れ箇所を点検しているときに2号線特高受電室の空気遮断器付近で感電した。	359	13	～			300 ～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。

